

鐘の音

さいたま市男女共同参画推進センター
パートナーシップさいたま
広報誌vol.11

kane-no-ne

2007.3

特集 学び、気づき、実践へ 2,3

平成19年度パートナーシップさいたまの講座・講演会の予定

- さいたま市女性カレッジ2006
- 女性史に学ぶ、女性史から学ぶー全17回が終了しました 4
- ただいま活動中!自主グループ「それいゆ」
- 相談員へのインタビュー 5
- Book Navi 図書のご案内
- 施設・相談のご案内 6

人に優しいということ

ーセクシュアル・ハラスメントを問題として



金子 雅臣さん

労働ジャーナリスト

元東京都職員、労政事務所
などに勤務
セクハラなどの労働問題に
関する著書多数

人が望んでいることをする、ないしは嫌がることをしないということが人に優しいということの原点です。ですから、相手を理解していないところで優しいということはありません。

「セクシュアル・ハラスメント」が日本で言われ始めたころは、企業は人間関係中心で運営されているし、その良好な関係や環境こそ第一だから、セクハラなどというのは普通の人はやらないし、その概念も一般には広がることはないだろうと受け止められていました。

しかし、現状は残念ながら非常にセクハラが増えていました。あちらこちらの相談窓口でも相談件数が増えていましたし、また裁判件数も増えていました。

これは必ずしも企業だけではなく、学校、介護現場、任意の団体など、さまざまな所で起きるようになったことや、概念が言葉として定着し、認知されてきたことによるのも増加の理由のひとつかもしれません。しかし、それにしてもセクハラはなぜ起きてしまうのでしょうか。

その理由のひとつとして考えられるのは、企業で働く男性たちの労働環境の急激な変化があります。彼らのストレスが、弱い立場の人へ向かっていっていることがあります。企業間競争の激化、雇用形態の変化、成果主義の導入など、いまだかつてない労働状況の変化のなかで、多くの男性は余裕を失い、追い立てられながら仕事をしています。

つまり、いままでの比較的安定した立場から、旧来の価値観やモラルが通用しない、非常に不安定な弱い立場に置かれるようになったということです。その変化による不安感や苛立ちを埋め合わせるため、より弱い立場の人へのセクハラという行為や形で人権侵害を行う、そのことで、心のバランスを取ろうとしているのです。

その背景には、ジェンダーによる「男らしさ」「女らしさ」の呪縛があります。「男とはこういうもの」「女とはこういうもの」という思い込みや差別意識が、セクハラへのハードルを低くしているのです。

セクハラを男性問題として捉えていくには、ジェンダーを絶えず問い返し、ジェンダーの視点で社会を問い直していかなくてはなりません。ジェンダーに敏感な目を持ったうえでコミュニケーションしていけば、お互いに傷つけ合うこともなく、人にも優しくなれる、そういう人間関係ができると思います。

※ジェンダー：人間には生まれつきの生物学的性別(セックス/sex)がある。一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的性別」(ジェンダー/gender)という

〔パートナーシップさいたま主催5回連続講座「さいたま市男性カレッジ」第4回「人に優しいということⅡ」での講義から〕

学び、気づき、実践へ



平成19年度パートナーシップさいたまの講座・講演予定

多様化する社会の中で、よりよく生きていくためには何が大切なのでしょうか。
パートナーシップさいたまの講座・講演会でいっしょに考えてみませんか？

名称	内容	日時・回数	会場	対象・定員
女と男の トレンド社会学	その時々ホットでタイムリーな話題をテーマに、ゲストと参加者の意見交換を楽しみます。	①12月(未定・1回) ②2月～3月(夜間・2回)	①未定 ②パートナーシップさいたま	市内在住・在勤・在学の男女24人
男女共同参画 実践講座	男女共同参画に関する最新の知識と講座づくりのノウハウを基本から学び、実践に生かすことを目的に実施します。	6月16日、30日 7月7日 土曜日 (10時～16時・3回)	パートナーシップさいたま	市内在住・在勤・在学の男女24人
グループ活動を上手に運営するには	グループをつくったはいいけど続かない…、そんな経験ありませんか？上手な運営のこつを学びます。	10月(13時30分～15時30分・1回)	パートナーシップさいたま	市内在住・在勤・在学の男女24人
男女共同参画 週間記念講演会	仕事と家庭の両立やバランスを考え、1人ひとりが個性や能力を生かせる社会を展望します。	7月8日 日曜日 (午後・1回)	文化センター	一般・100名
離婚の 基礎知識	やむなく離婚の道を選ぶとしても、正しい知識を得てから判断するのが大切です。ここではそのイロハから学びます。	2月12日、19日、26日 (10時～12時・3回)	未定	市内在住・在勤・在学の男女40人
暮らしの 女性学	暮らしの中で感じる疑問や不都合なことに目を向け、社会との関連で女性の生き方を考えます。	9月6日、13日、20日、27日 木曜日 (10時～12時・4回)	女・男プラザ	市内在住・在勤・在学の女性24人
さいたま市 女性カレッジ 2007	女性問題や男女共同参画について系統的に学び、理解を深め、問題解決の道を探ります。	9月18日、25日 10月2日、9日、16日、23日、30日 11月6日、13日 火曜日(10時～12時・9回)	パートナーシップさいたま	市内在住・在勤・在学の女性24人
女性に対する 暴力を考える 講演会	隠された犯罪といわれるドメスティック・バイオレンスを根絶する道を探ります。	11月～12月上旬 土曜日 (午後・1回)	未定	一般・未定
さいたま市男性 カレッジ	男性自身も気づかない「男らしさの呪縛」を解き、イイ男への登竜門をめざす講座です。	2月～3月 土曜日 (午後・4回)	パートナーシップさいたま	市内在住・在勤・在学の男性24人

※ 内容等は変更になる場合があります。詳細は市報さいたま等でお知らせします。また、パートナーシップさいたまにお問い合わせください。

知りたい!学びたい!と思ったら
パートナーシップさいたまの講座・
講演会にお気軽にご参加ください



▲「2006男性カレッジ」ある日の講座風景

よくある質問をとおしてご案内します

いつ開催しているのか知りたい

講座・講演会のお知らせは、市報さいたまとホームページで行っています。また公民館、図書館などにも、チラシを配布しています。

申込はどうすればいいの?

電話・FAX・Eメールで受け付けています。講座によっては往復はがきでの申込の場合もあります。申込方法、必要事項は市報さいたまなどでご確認ください。

小さい子どもがいるけれど参加できる?

講座・講演会にはすべて託児を用意しています。2歳から未就学児を対象にしています。講座参加と同時に申込を受けています。(保険料は実費負担)

受講料や参加費は必要?

すべて無料で参加できます。

何回でも参加できるの?

思ったときに学びどき、どの講座も何回でも参加できます。



▲子どもたちも安心して楽しく遊びながらパパやママのお迎えを待っています

男女共同参画市民企画講座を 募集しています

みなさんの自由な発想で男女共同参画に向けた講座を開催してみませんか?19年度もみなさんの多様な経験を活かした企画講座を募集します。決定した企画には経費の一部を補助します。募集は4月以降の予定です。

18年度は次の2団体による講座が開催されました。
※団体での応募に限ります。

○「働きたい女性のためのワークショップ 仕事をはじめるその前に —再就職のための基礎知識—」

NPO法人キャリアプラザ埼玉

内容.....

- ・“働く場”—今って、どんな状況なのだろう?
- ・3人の女性たちの体験談を聞いてみよう

など全6回

○「私の生き方再考これまで、そしてこれから」

めんどり会議ふぁーすとすてっぴ

内容.....

- ・主婦ってなに?
- ・「私」の育ち方、生き方点検

など全3回

パートナーシップさいたまの ホームページができました



内 容

各種事業や施設の利用案内、広報誌「鐘の音」のバックナンバーなどを掲載しています。講座・講演会の受付状況もホームページでお知らせしています。ぜひご覧ください!

アクセス方法

市のホームページ (<http://www.city.saitama.jp/>) のトップページから「広報・情報公開」の「男女共同参画」をクリックしてください。

女性史に学ぶ、女性史から学ぶ

—全17回が終了しました—



●テーマは「女性史」でした

約20名の女性たちが古代から、中・近世、近・現代まで、17回連続で系統的に女性史を学びました。また「論点整理と話し合い」も幾度が行ない、講義の内容を振り返り確認しながら、自分の意見を伝えたり人の意見を聞いたりして、学んだことを深めていきました。

さらに講座終了後には自分の関心あるテーマを選び、レポートを作成しました。受講者はレポート作成にあたって、内容や記述方法など一人ひとりが講師から助言をしていただき、それを参考に何度も見直ししながら原稿を書きあげていきました。

学習内容とレポートは、1冊にまとめられ、学習記録誌として3月末に発行しました。



▲「論点整理と話し合い」の回では各自の活発な意見交換も

●修了者のみなさんの感想の一部を紹介します

- 頭では男女平等を理解して行動もしてきたつもりでしたが、現実には全然そうではなかったと思い知らされました。
- 市川房枝さんなら^{いま}現代の社会情勢を何と思うだろうと考えました。あれほど一貫して運動された方が日本にいたのはすごいことだと思いました。
- 働きたいと思う人が、どうして働けないのだろうかと思っただけですが、私も働いていいのだと確信できました。
- 自分の考えをもつ、自分の人生に責任をもつのは人間として当たり前のことだと再確認しました。

「さいたま市女性カレッジ」ってなに？

さいたま市女性カレッジは毎年メインテーマを設け、系統的に男女共同参画推進に関して学び、実践や活動をしていけるように企画されています。

これは「さいたま市男女共同参画のまちづくりプラン」という計画に基づいて実施されているもので、市・市民・事業者が連携しながら人権尊重の社会づくりを進めること、そのための力を得ることを目指しています。

日々変化する社会をどうとらえ、今をよりよく多様に伸びやかに生きていくためには何が大切か、自らの意識や慣習、諸制度が性別に関して公平か、などについて学んでいく機会を提供しているものです。

陽」を表すフランス語のソレイユからグループ名を「それいゆ」にしました。

とにかく明るく、悩みななど何も無いかと思われましたが、意外に話してみると、「主婦」独特の不満や不安にぶつかっていたり…、女性としての生きがいも探し求めている…という共通点が見つかり、意気投合しました。

各自で「マイノ」を持ち、気持ちを書き込むことから始めています。一歩一歩前へ進めるよう、楽しみながら学んでいければと思います、いつも話に花を咲かせています。

それいゆ代表 (松川 敦子)

ただいま活動中

自主グループ「それいゆ」

パートナーシップさいたまと女・男プラザの講座から誕生した自主学習グループを紹介します。



▲楽しみながら学んでいます

私たちの自主グループは、「暮らしの女性学」(平成18年5月～6月全5回)という講座から誕生しました。「それいゆ」とは、平塚らいてうの「原始、女性は太陽だった」の言葉にヒントを得、太陽に似合うひまわりをイメージしたことからよります。そして「太陽」を表すフランス語のソレイユからグループ名を「それいゆ」にしました。

とにかく明るく、悩みななど何も無いかと思われましたが、意外に話してみると、「主婦」独特の不満や不安にぶつかっていたり…、女性としての生きがいも探し求めている…という共通点が見つかり、意気投合しました。

各自で「マイノ」を持ち、気持ちを書き込むことから始めています。一歩一歩前へ進めるよう、楽しみながら学んでいければと思います、いつも話に花を咲かせています。

それいゆ代表 (松川 敦子)

相談員へのインタビュー

女性の悩み電話相談

パートナーシップさいたまでは、女性の悩み電話相談、法律相談、心の健康相談といった相談事業を行っています。今回は、女性の悩み相談を担当している二人の専門の相談員に「鐘の音」の編集員がインタビューしました。その一部を紹介します。

Q 「女性の悩み電話相談」は、まずは電話で、ということですね？

A 電話ならいつでもどこからでも相談したいときにできます。そんな身近な相談機関です。

相談は、30分程度を目安にしています。その際、名前もお聞きしませんし、相談員も名乗りません。

また相談内容によっては面接をすることもあります。内容が漏れることは絶対ありません。安心して相談して下さい。

Q どのような相談がありますか？

A 離婚にまつわること、DV、夫や子ども・親戚のこと、嫁姑問題、また職場の人間関係などとても幅広いです。「聞いてもらうだけで良いんです」という方もいます。それだけでも、ずいぶん気持ちが軽くなるようです。

Q 相談員として心掛けていることはどんなことですか？

A 相談者が直面している問題や悩みを的確に理解することと、その解決に向けての道を見出せるよう、本人の意思を尊重しながら、ともに考えるようにしています。

相談内容が幅広く、複雑に絡み合ったものもあります。相談者に少しでも満足していただけるよう日々研鑽を積み重ねて考えています。

Q 相談員をしていてよかったと思うのはどんな時ですか？

A 相談者から、「そういう考え方もあったのですね」「話を聞いてもらってよかった」など「相談してよかった」と言ってもらったときです。

インタビューを終えて

公的機関でもあり、相談員の方は責任を持って真摯な態度で相談に当たられているのがよく分かりました。

悩みを抱えている人は、他の人に話をし気持ちを分かってもらうことにより、ずいぶん楽になることがあると言われています。小さなことで一人で悩まないで言葉に出し相談されてはいかがでしょうか。

自分では思いつかなかった道筋を見出し、解決に結びつける可能性も出てくると思います。そして、現状より一歩でも前に進むことができると思います。 (岡本 精文)

※相談のご案内は6ページに掲載

Book Navi

情報・資料コーナーで貸し出している図書のご案内です。

『赤ちゃんが来たら、こんなことが起きる』

杉山由美子・著 1998年<小学館>

一気に読んでしまった。子どもを産もうと決意するまでの気持ちや、赤ちゃんが産まれてからの夫婦の関係、子育ての様子などが楽しくエッセイ風に書かれていて読みやすくおもしろかった。

現在専業主婦の私から見れば、著者は夫婦で仕事をもっているのが、大変ではあるけれど理想的だなと思う。夫も子育てをし、妻も働く。そうすれば、2人の気持ちがより近くなり、対等になっていくだろう。もちろん、収入の面でもいざという時には安心だ。

女性も働き、収入を得て自分の夢を現実にしていければ、老後の「年金問題」などの不安からも少しは解放されるのではないかな。もちろん早く、女性が働きやすい社会、子育てしやすい社会をつくって欲しいとも強く願う。

(浅見 靖子)

『お父さん頑張る★★痛快!主夫業』

あみぼしかつひろ・著 2005年<日本文学館>

家庭を顧みない典型的な仕事中毒の会社員だった夫が、ある日から主夫になり、家事・育児・パートタイマーにと、日々の暮らしぶりを男の視点で書いた「奮闘記」である。

掃除・洗濯・食事の支度・保育園の送り迎えにお弁当作り、そして主婦に混ぜてのパートタイマーと、多くの家庭では母親が担っている仕事を父親がこなし、その様子がとてもわかりやすく描かれている。

主婦&パートタイマーである私には、その状況が鮮明に浮かび、思わず「そうそう」と声を出したくなるほどだ。

ライフスタイルも多様化し、家庭のあり方も変化していく時代、男だから女だからとこだわらず「こんな家庭もあるんだ」と、夫婦二人で読んで欲しい一冊である。

(藪田 由美子)

施設のご案内

	パートナーシップ さいたま	ひとひと 女・男プラザ
場所	大宮区桜木町1-10-18 シーノ大宮センター プラザ3階	緑区中尾1440-8 プラザイースト3階 <small>※浦和駅西口よりバス、「緑区役所入口」下車 又は東浦和駅よりバス、「プラザイースト南」下車</small>
開館 時間	平日 9:00~21:00 土・日・祝日 9:00~17:00	9:00~17:00
休館 日	第4日曜日、年末年始	月曜日、年末年始
施設の利用	男女共同参画の推進を目的とする活動に、ご利用ください。 (パートナーシップさいたまの会議室・プレイルームと 女・男プラザの団体活動室は、利用登録が必要です。)	
情報・資料コーナー、交流コーナー	本や雑誌、行政資料、ビデオなどがあります。 閲覧、貸出しができます。ちょっとした話し合いに利用 できる交流コーナーもあります。	
お問い合わせ	048-642-8107	048-875-9966

相談のご案内

● 女性の悩み電話相談

女性の生き方、夫婦、親子の問題、職場や近隣の人間関係などの相談に応じます。

パートナーシップさいたま	☎ 048-643-5813
月~金/10:00~20:00 土・日・祝/10:00~16:00	
ひとひと 女・男プラザ	☎ 048-875-9653
金/10:00~17:00	
浦和区役所 女性の相談室	☎ 048-829-6129
月・火・水・金/10:00~17:00	
中央区役所 女性の相談室	☎ 048-840-6132
月・水/10:00~17:00	
岩槻区役所 女性の相談室	☎ 048-790-0158
月・水/10:00~17:00	

● 法律相談(予約制) 女性の弁護士が相談に応じます。

パートナーシップさいたま	☎ 048-642-8107
第2・第4水曜日/13:00~15:30	
ひとひと 女・男プラザ	☎ 048-875-9966
第1・第3火曜日/13:00~15:30	

● 心の健康相談(予約制)

専門の女性医師が相談に応じます。

パートナーシップさいたま	☎ 048-642-8107
第3月曜日/13:30~16:30	

◆相談は無料です。◆秘密は厳守します。

編集後記

40代半ばの今日この頃、友人たちとの井戸端会議に介護の話題が増えてきた。子育てが一段落してきたら「こんどは介護に直面する。女性の環境は、なんてめまぐるしいのだろう。家制度がなくなり「嫁」は死語になったと学んだが、いやいや「嫁」は、しっかり意識の中に生きている。

しかし、女性は学んば機会も増え、意見を発する場も増えてきている。平成19年1月公表の「男女共同参画に関する市民意識調査報告書」では、「社会通念や慣習」について、根強く男性が優遇されている意識がみられるが、あきらめないで男女平等を目指していきたいものだ。

(井澤 美恵子)

このところ、子育て雑誌が急増している。少子化となり、父親も育児や教育に参加することが「種のトレンド」だからだ。それはそれでいい。

しかし、「勝ち組・負け組」とおあるような見出しには違和感を覚えています。「教育ママ」という言葉が後退した今、両親揃って子どもの教育にキリキリしてしまったり子どもは行き場を失うだろう。

父親が子育てに積極的に関わるのはもちろん大歓迎。だが、やり方を間違えれば子どもたちは窒息してしまふ。どうやってバランス感覚を保った男女共同参画を目指すのか、一人ひとりが考える時期に来ている。

(柴原 早苗)

広報誌「鐘の音」のご感想、ご意見をお寄せください。
郵便、FAX、E-mailでパートナーシップさいたままで
お願いします。

《誌名「鐘の音」》
大宮の古い地名「鐘塚」に建てられた「パートナーシップさいたま」から、男女共同参画推進の鐘の音を響かせたい、その願いを込めて名づけました。

パートナーシップさいたま広報誌「鐘の音」vol.11 2007年3月25日発行
＜編集・発行＞

さいたま市男女共同参画推進センター パートナーシップさいたま
編集員/浅見靖子・井澤美恵子・岡本精文・柴原早苗・藪田由美子
〒330-0854さいたま市大宮区桜木町1-10-18シーノ大宮センタープラザ3階
電話 048-642-8107 FAX 048-643-5801
E-mail: danjo-kyodo-sankaku@city.saitama.lg.jp
7・11・3月発行(年3回)

